

令和 6 年度第 1 回酒田市社会教育委員の会議 【概要】

日 時	令和 6 年 9 月 19 日（木）午後 1 時 30 分～3 時 10 分
場 所	総合文化センター412 号室
出席者	委員 11 名（欠席 1 名） 事務局 酒田市教育長、教育次長、社会教育課長ほか 5 名
◆協議（１）酒田市生涯学習推進計画について ○委 員： 計画の「勤労観・職業観の育成」に関して、地方都市の課題として若者の県外流出がある。地域に若者が定着するような社会教育の実践が必要ではないか。学校のキャリア教育のほかに、社会教育のキャリア教育によって、若者が地元で働き、定着する仕組みが必要である。 郷土愛の醸成だけで若者定着は難しいと思う。働くことが重要になってくる。地元に着して地元で働くようになるプログラムなども検討してほしい。 ○事務局： キャリア教育に関して、市では、バスツアーを企画して高校生や公益大学の学生が地元企業を訪問し、事業内容や先輩から仕事の話を聞く機会を設けている。 県では、庄内全域から市長、町長、産官学金労言からなる方、PTA、学校関係が一同に集まる会議を開催して意見を伺っている。会議の中で、学校や保護者からは、「子どもには自由に進路を決めてほしいので、地元へ戻る前提の教育はしていない」という意見がある。 一方、子どもたちが地域へ関わる経験をすることで地元への意識が高まることもあるといった声もある。例えば、外国のクルーズ船が入港した際、中・高校生が酒田のことを学んで外国人をおもてなしすることで酒田を良く知ることになり、もっと地域と関わりたいという気持ちを持つことがある。子どもが地域に興味を持つような活動を地域とともにやっていくことは大事だと思う。 ○委 員： すでに取り組んでいることは理解した。ただ、社会情勢が変わっている中、働き方も変わってきている。今後さらにキャリア教育を通じて働き方を考えてほしい。この地域は、給料水準が全国でも低い方である。地元に着する覚悟を示せるような方向性を示してほしい。 ○事務局： 新たな視点を求められているということだと思うが、考えてみたい。	

○委 員：

「郷土愛にあふれた人材の育成」に関して、家庭教育というと難しい感じがあるが、「休日に親子で美術館に行く」でもいいし、「公園へ行く」でもいい。親が忙しいとか貧困とかで、どこにも連れて行ってもらえない子どもや、家に居場所がない子どもが多くなっている。

郷土愛とは何かと考えるが、酒田にはいい所がいっぱいある。例えば松山文化伝承館、出羽遊心館など、ぜひ親子で行ってもらいたいが、行く機会がない子がいることを知ってもらいたい。

また、夏は熱中症の危険があるが、今年は文化センターの体育室が遊び場として開放され、大変好評だった。そのように使える所があれば提供してほしい。歩いて行ける地域のコミセンを開放して先生OBが見守りするような夏休みの過ごし方ができればありがたい。行政からもう少し関わってもらいたい。

○事務局：

今年の夏休みに体育室を開放したが、大変好評だった。未就学児も多く来場した。このような場所が求められていると改めて感じた。社会教育課では、夏休み宿題お手伝い教室を開催した。もっと身近なコミセンでも同様に開放できればさらにいいと思うが、市全体で検討してみたい。

○委 員：

学校では熱中症指数を確認しているが、グラウンドや体育館が使えない日が多くあった。豪雨の際、体育館が避難所になったが、避難者は暑くてコミセンのエアコンのある部屋へ移動した。

黒森コミセンのホールにはエアコンがないので、夏休みに子どもは遊べなかった。予算が厳しいかもしれないが、エアコンを設置していただければありがたい。

○委 員：

今は熱中症の問題があり、夏休みの子どもの過ごし方は大きな課題だと感じた。

○委 員：

最近高齢の母がミライニの朗読劇へ参加したが、女性は高齢になっても社会と関わり上手である。一方、高齢男性は関わるのが苦手な人が多く、なかなか行事等に出てこない方が多く、課題と考えている。

ところで、スクール・コミュニティの発想は2年程前からだと思うが、地域プロデューサーとは、どんな人で、どんな仕事なのかという質問も出されたと思う。地域プロデューサーとは、学区の自治会長会の代表なのか、または他の役に就いていた方があて職でなっていくのか、構想が決まっていれば教えていただきたい。

○委 員：

前は「コミュニティ・スクール」と言われたが、2年前から「スクール・コミュニティ」となったと思う。「コミュニティ・スクール」は学校に重点があつて、「スクール・コミュニティ」はコミュニティに重点がある、と研修できいた。

○事務局：

「コミュニティ・スクール」は国の制度で、学校を核とする地域づくりということだが、酒田市は「酒田型スクール・コミュニティ」を目指していて、制度ではなく理念や考え方ということである。PTA や地域学校協働本部の活動の先に、「スクール・コミュニティ」がある、という図式になる。

地域プロデューサーは、市の行政職を退職された方1名が配置されている。去年は第四中学校学区を回っていたが、今年度は市全域を回るときいている。

○委 員：

たしか第四中学校は、スクール・コミュニティの考え方で小中一貫教育を目指しているときいたが、黒森小学校では中学校との連携はどのようなものか。

○委 員：

私も地域プロデューサーについて質問したい。先日、本校で孫親学級を開催した。地域のおじいちゃん、おばあちゃんを招いて児童とグループになってフロアカーリングと輪投げを楽しんだ。主催はコミ振で、本校教頭とコミ振事務局の方が相談して内容を決めた。コミ振関係者が講師で来てくれて、とてもよい社会教育となった。これをプロデュースしたのはコミ振事務局の方である。

前任校の西荒瀬小学校でも、天文ウオッチングや鮭の活動、干し柿づくりなどについて、学校だけでなく、コミ振事務局の方が地域の方と一緒に相談しながらやってくれた。

今の地域プロデューサーは、行政を退職された方が1名というのが気になった。果たしてその方が地域をどこまでご存じなのか。一番地域をご存じなのは、コミ振事務局や会長さんで、地域に住んでいる方が地域をよく知っている。地域プロデューサーは各地域に1人いてほしい。学校としては各地域に1人いると、窓口となる教頭も助かると思う。

次に小中一貫教育については、川南地区の学校では毎年合同研修会を開催していて、今年は山形大学の森田准教授を黒森小学校へ招く。6小学校と第四中学校で、子どもが中学を卒業するとき、どんな姿になってほしいか、ということを共有している。登り口はいろいろあるが、目指すところは一緒と考えている。また、様々な部会をつくって情報交換をしている。

○委 員：

地域プロデューサーは、地域と学校を結ぶキーマンだと思う。

○委 員：

私はこれまでの西荒瀬小学校、浜田小学校でも地域の活動はいつもコミ振事務局の方と話をしていた。地域の人材活用ということでは、学校に人材リストがあり、教頭が窓口になってコーディネートしていた。

○委 員：

計画に「地域プロデューサーの配置」とあるので、地域プロデューサーがコミ振事務局に増員されるのかと思っていたが、違うようだ。

西荒瀬地区では、地域の教育力向上事業のため専門の職員を置いている。地域の教育力向上事業は、以前は社会教育課が担当だったが、紆余曲折があって、今はまちづくり推進課に変わった。

まちづくり推進課はコミセン全体の管理を見ていて、その中の社会教育までは手が回らない。前は事業報告を社会教育課へ提出していたが、今はまちづくり推進課へ出しているはず。

○事務局：

まちづくり推進課では、今は事業報告まで求めている。

○委 員：

どこのコミ振で何の事業をしているか見えなくなるので、我々は一応報告を作成して情報交換している。地域の子に地域のことを伝えるため学校と連携して頑張っているが、やればやる程、学校への負担が大きくなると感じている。

また、熱中症の問題もあり、体育館を使えないときはコミセンの集会室で体育の授業をしている。豪雨災害の際、避難所は小学校の体育館が原則だが、熱中症の二次被害があったのは困るのでコミセンへ移動した。これが小学校の現実である。子どもがどんどん減少していく中で、基本計画へそれが落とし込まれていないと思う。

○委 員：

西荒瀬地区の豪雨災害の被害はどうだったか。

○委 員：

大変な被害だった。あの日、雷が鳴る危険な中を子どもたちが登校したが、非常時の登校隊のあり方は検討しなければならないと感じた。

日向川の氾濫のハザードマップはあるが、氾濫ではなく堤防決壊だったので、マップは役に立たなかった。保育園や小学校、コミセンの周辺まで水がきて孤立した。その後、地区では今回の災害の状況を時系列で写真もつけてまとめた資料を作成したので、今後の防災に役立てたい。

床上浸水が 35 軒程度、10 軒ほどは家の再建は難しい。家の 2 階で生活して学校へ通っ

ている子もいる。コミ振でも教育力向上事業や敬老会は中止、文化祭は縮小、小学校の 150 周年記念事業も縮小するなどしている。命に関わるような人がいなかったことは救いである。

◆協議（２）酒田市中心公民館のあり方について

○委員：

私は酒田三曲協会で文化センターを利用している。文化センターは、冷暖房込みで料金も安い。コミセンはもっと割高になる。利用者としては、現状維持のままでよいと思う。

先日の市民芸術祭の開闭幕式典では、保育園児の絵の展示や中学生の合唱等で盛り上げた。ハワイエには和楽器を置いて子どもたちに触れてもらった。そんな賑わいのあるイベントを文化センターでもできないか。単発のワークショップではなく、連携してできないかと考えている。

10 月 11 月の我々の団体の練習日には、文化センターのモールで実験的に他の団体も一緒にミニコンサートをするが、このようなことで盛り上げていきたい。

○委員：

私は S R 会の活動で文化センターを利用している。アンケートを見ると 60 歳代が多いが、若い人取り込む工夫が必要である。文化センターのような施設で子どもの声が飛び交っていると賑やかでいいと思う。例えば、ここで子どもは遊んで、親は相談ができるような、この施設で子どものことが完結できるとありがたい。

建物は古いが、いろいろな世代が来やすいよう、トイレや Wi-Fi など環境を改善して、人が来るような工夫をしてはどうか。

○委員：

若い人から見るとどうか。

○委員：

我々の会合は、仕事後、概ね午後 7 時 30 分スタートとなるが、9 時完全撤収だと難しい。その後懇親会ということもあれば、ホテル等の利用になる。Wi-Fi やスクリーン等の設備の問題もある。勤労者福祉センターも夜の撤収時間が早くて使いにくい。

○委員：

アンケートをみると、年代が 60 歳代以上と高いが、サークル活動が 7 割で、社会教育施設の役割は果たしていると判断できる。県内に公民館がない市はないということでもあるし、早急に公民館をやめる必要はないと思う。

公民館をなくするメリットとして、収入面とか成功した先行事例となることとかあるのかもしれないが、そこまでの効果は見込めないのではないか。現状の利用者は満足してい

るので、周りの市の様子見をしてみてもいいと思う。

自分は公共施設適正化懇談会の委員をしているが、公民館まで一括りにしなくてもよいと思う。文化センターの利用者は70歳代、80歳代が多いが、健康づくり、生きがいづくりに結びついているので、急いで公民館をやめなくてもよいと思う。

○委 員：

鶴岡市の状況はどうか。

○委 員：

鶴岡市では、図書館を新しくするので議論しているが、図書館をどうするかというより、若者が集まれる場がほしい等の話になる。今は、図書館や公民館をどうするかというより、市民にとって何が必要なのかが問われていると思う。

公民館をどうするかより、何が課題なのか掘り下げていく必要があるのではないか。財源だけの理由なら稼ぐことだけ考えればよいので、公民館の看板を外すことは理解できる。そうでないとすれば、何が課題で何を解決するのかをはっきりさせればよい。これまでの話をきくと、財源の話なのかとも感じた。

○委 員：

私も阿部先生の意見に共感する。今公民館をやめるのではなく、今後の検討課題としてはどうか。他に意見はあるか。

○委 員：

自分は高校時代、文化センターで勉強した。いま、子どもが家で勉強できず、ミライニや交流ひろばや市役所1階に行っているが、勉強できる場所が少ないと感じる。文化センターでも勉強する部屋があるとありがたい。

以上